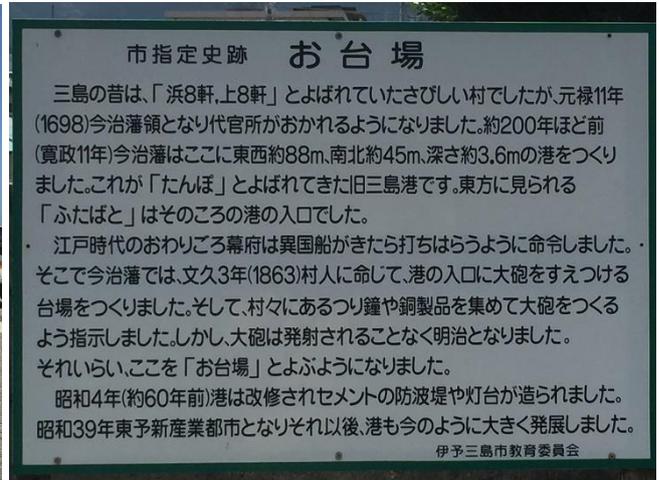


# お台場跡



港記念公園の西側にお台場と呼ばれているところがある。

現在は埋め立てられ港記念公園となっているが、かつては三島漁港があり、ここは、寛政11年(1799年)に今治藩が船囲い場を修築したところである。東西約88m、南北約45m、満潮時の深さは3.6m、干潮時の深さが1.2mで大型帆船も出入りできたという。

お台場とは、大砲を据える台場があったところである。嘉永6年(1853年)にペリーが来航して以来、幕府は各藩に海岸防御を厳しくさせた。三島でも今治藩の代官の命令で村民を動員して三島港の北側に土を盛り、石を積み、砲を据え付ける台場をつくった。また、村内のつり鐘や銅製品を集めて大砲をつくる準備をした。それ以来、ここを「お台場」と呼ぶようになった。